

令和2年度(第74回)

芭蕉祭



【問い合わせ】

○文化交流課 ☎ 22-9621 FAX 22-9619
 ✉ bunka@city.iga.lg.jp
 ○(公財)芭蕉翁顕彰会 ☎ 21-4081 FAX 51-6796

一般の部 特選

芭蕉翁の業績を称え遺徳を偲ぶ令和2年度(第74回)芭蕉祭を、10月12日(月)、上野公園を中心に行いました。芭蕉翁銅像、文学碑への献花・献菓のあと、上野公園内の俳聖殿前で式典を行い、献詠俳句特選句の披露、懸額除幕、各受賞者を表彰しました。各部門の特選・最優秀と、一般の部で入選した市内の皆さんの句を紹介します。※選者は五十音順に記載しています。

- ▼有馬朗人 選 豊中市 鶴川 久子
 貼り替ふる釣月軒の白障子
 茅の輪くぐる近つ淡海は星満ちて
 名古屋市 光田 道子
- ▼稲畑汀子 選 横浜市 松永 朔風
 忌を修し別れを惜しみ秋惜しむ
 宗派の祖鎮まる山の紅葉濃し
 山梨県 上田正久日
- ▼茨木和生 選 宝塚市 廣田 祝世
 飯匙情捕りの道具と言ふも棒一つ
 梅雨茸その名一つも知らざりし
 赤磐市 杉本征之進
- ▼宇多喜代子 選 城陽市 森下まゆみ
 ゆつくりと地殻変動牛蛙
 寒鴉大きく飛んで来て小さし
 高槻市 高野 卓也
- ▼小澤寛 選 杉並区 草野 准子
 どこまでも一本道ぞ道をしへ
 新涼や珈琲ぼくが淹れやうか
 岡崎市 平田 柚月
- ▼小川軽舟 選 伊賀市 佐々木経子
 風蘭を吊す古書店軒低し
 井戸水に西瓜と足を浸しけり
 春日部市 内田 木良
- ▼黒田杏子 選 松江市 寺津 豪佐
 薄氷は割らねばならぬ昼までに
 梅仕事日記に残す句に遺す
 奈良市 杉田百合代

坂口緑志 選

慰霊の日礎をなぞる手も老いて
 伊勢漁夫の土用の雨に蜺搔く
 名古屋市 田辺 満穂

塩田菰柑子 選

自肅解け街に繰り出す梅雨晴れ間
 探知器に魚影色濃き青葉潮
 伊賀市 杉尾千代子

權未知子 選

体ごと笑つてゐる子金魚草
 種案山子日照雨に胸を開きけり
 厚木市 軍司 毬衣

西村和子 選

秋の雲美しければ命惜し
 オンライン飲み会父の日の乾杯
 名古屋市 加藤 利尾

長谷川權 選

蜺汁貝にも故郷ありにけり
 退屈な夫を遊ばす目高の子
 富士見市 松島 孝幸

星野椿 選

輪飾を掛けて使はぬ車井戸
 水打つて遠忌の僧を迎へけり
 半田市 矢浦みち子

正木ゆう子 選

三才の右脳に刻む虫狩
 明けぬ梅雨かも轟音の火球に尾
 名古屋市 蓮沼たけし

三村純也 選

木々渡る風に鳴きつぐ法師蟬
 さよならは云はず草笛鳴らしゆく
 半田市 桑田 隆行

宮坂静生 選

抽んづる樟の樹勢や七五三
 葉桜や観音鯛を抱き給ふ
 伊賀市 森中 幸枝

宮田正和 選

鳥の影跳ねてむらさき花樽
 岬宮への雨を繋ぎし夏木立
 伊賀市 森永 康子



英語俳句の部 特選

▼河原地英武 選 (訳)

A-bomb blast centre
long row of lanterns flows
on the Motoyasu River (流燈の列の長さよ爆心地)

Adam Kajzer / Poland

The castle comes in sight
from anyplace in the town
high autumn sky (どこからも城見ゆる町天高し)

Kyoko Shimizu (清水京子) / Japan



連句 特選

▼北原春屏 林転石 宮川尚子 西田青沙 共選
半歌仙『旅立ち』の巻

京都府 古都連句会 廣瀬松石
行春をあふみの人とおしみけり 芭蕉翁 捌

柳の門をくぐる旅立ち 井尻 荷葉
暮遅し猫があふるる港にて 冬日庵 訥平

八十路の大工未だ現役 出来 千苑
月出づとそろりと仕舞ふ道具箱 竹本 俊世

赤い羽根をと声を張る子等 岡本 利英
駅前以案山子も笑みてがんばれと 廣瀬 松石

太刀洗ふてふ戦跡の川 荷
お姫様輿入れ従者千余人 利俊 千訥

庭師との恋秘めて激しく 松
四阿に媚葉の香り充つる宵 利俊 千訥

塀の向うを竹竿売りが 荷
パナマ帽伊達な遺影に時止まる 松

梅雨の雲間に久方の月 荷
無言行遂に阿弥陀の声を聞く 利俊 千訥

思索の小径足取り軽く 荷
目と鼻の先に揺れます花の枝 利俊 千訥

遠き蛙に一日終はりぬ 令和二年六月一日 満尾 文音

テーマの部 特選

テーマ「集」

▼片山由美子 選

雪解水集め怒濤の天竜川 岡崎市 伊藤 賢一
遺句集となつてしまひぬ花は葉に 茅ヶ崎市 長島 久江

絵手紙 特選

伊賀市 葛原香洋子



ポスター原画 最優秀

玉滝小学校四年 谷本 晴汰



【保育所(園)・幼稚園・小学校一〜三年】

- ▼岡島千秋・佐々木経子・島井節・西村八洲子・福森志津子 共選 (五十音順)
 ウシガエルいつかぜったいつかまえる みどり第二保育園 中崎 遙人
 かぶとむしツノでたたかうちからもち ゆめが丘保育園 境 陸斗
 にゅうどうぐもおおきくなったらせんせいにな 白鳳幼稚園 小妻 奈央
 かぶとむしつのいっぽんのすもうとり 上野東小学校一年 森地やよい
 しおっからいえだまめぶちととびだした 上野北小学校一年 山添 真佳
 たいふうでたけがだんすをしているよ 中瀬小学校一年 榎並 大翔
 れいわ二年マスクをつけてすすぐす夏 上野西小学校二年 西村 寧音
 水をまくはっぱに光るくもの糸 上野西小学校二年 坂口 加恋
 おにやんまなげたぼうしでつかまえた 阿山小学校二年 箱林 遼
 おじいさんマスクをとればあせのひげ 上野東小学校三年 葛原 理人
 青山の風車つんだ二重にし 成和東小学校三年 川口 慶悟
 空見上げ「きぼう」見つけた夕すずみ 青山小学校三年 迫間 羽純



【小学校四〜六年】

- ▼下村哲朗・土井陽代・浜地和恵・松村咲子・山村勝子 共選
 おじいさん田んぼ仕事の日やけ顔 にじがでたちやんと七色あるのかな 友生小学校四年 森川 仁瑚
 ツバメの子どの子が先にとぶのかな 神戸小学校四年 坂本 彩音
 手作りの風鈴の音夜にひびく 名張市 桔梗が丘小学校四年 三村 優月
 ゆうぐれの田のあぜをとぶあきあかね 久米小学校五年 福岡 芽依
 ラジオつけ終戦記念日知った昼 友生小学校五年 宮崎 礼衣
 終戦日コロナ禍の下黙祷す 依那古小学校五年 西岡 詩織
 朝つゆの光る谷間を伊賀電車 上野西小学校六年 山口 夢叶
 名水のわき出る山とせみしぐれ 府中小学校六年 中村 房宏
 友生小学校六年 武村 悠登

【中学校】

- ▼喜多富美・坂石佳音・永井みよ・東構東子・福山良子 共選
 入学式不安をリュックにつめこんだ 城東中学校一年 森田明寿香
 猛暑日で仮想空間夏の旅 桑名市 明正中学校一年 杉本 真隆
 歯ブラシの先ばらばらに残暑かな 名古屋市 守山中学校一年 水野 結雅
 一年に一度の見出し終戦日 緑ヶ丘中学校二年 田場 美羽
 ヒマラヤに学校つくる夏の本 城東中学校二年 北口 陽翔
 夕焼けの朱に抱き込まれてゆく廃墟 津市 高田中学校二年 加藤 晴香
 秋夕焼山車跡たどる塾帰り 名張市 城東中学校三年 石川友伊那
 満員バス汗の引く間もなく降車 名張市 名張中学校三年 柴 千都世
 ベランダへ出るはだしからしんと夜 東京都 女子学院中学校三年 石鍋 更紗

【高等学校】

- ▼喜多富美・坂石佳音・永井みよ・東構東子・福山良子 共選
 飛ばぬ蝉手足を曲げて空を抱く 上野高等学校一年 澤田ひなた
 足早に登る階段夏の宵 名張市 名張青峰高等学校一年 水谷 夏葵
 ラフマニノフ弾いて晩夏の祈りとす 東京都 麻布高等学校二年 土谷 多央

一般の部 入選

※市内在住の人のみ掲載しています。

▼有馬朗人 選

天壇の上に大きな月がのる

福沢 義男

▼稲畑汀子 選

平穩に終わりし一と日星涼し

北村 みち

青田風白鷺景に解け込めず

光岡代里子

寺の子の心経覚ふ夏休

西澤与志子

礎なけば惹かるる牡丹浄土かな

山村 勝子

帰るてふ子を待つ銀河濃かりけり

東構 東子

一尺の布切れ持ちて夜なべせる

北村 みち

一八や小柄な母をなつかしむ

子曰 康子

▼茨木和生 選

一筋の螢火川面離れゆき

米田 朝子

瓢の笛ふつと力を抜けば鳴る

福山 良子

雲の峰人は地にゐて鋤を持つ

佐々木経子

▼宇多喜代子 選

目の手術夏草伸びるこの時期に

西出 喜子

秋の空あまりに長き鷺の首

松寄 久子

▼小澤實 選

日まみれにひしめく枇杷や翁生家

上田 幸子

乗り合す野火の匂を放つ子等

片山 妙子

ドクターヘリ発ち秋空を一直線

西田ゆかり

表札に蟬殻残し過疎の町

中矢 英二

▼小川軽舟 選

軋み来る単線電車菜種梅雨

山村 俊夫

土塀より聞こゆる読経夏椿

山島 美紀

▼黒田杏子 選

終戦日空襲は止み戦意止み

山村 俊夫

百観音拝す六角堂おぼろ

佐々木経子

新走り伊賀半蔵といふ地酒

山下 久美

ステイホーム夜は蚊遣焚き星座観る

土井 陽代

子燕の用足す様も可愛ゆかり

田端 昭子

土用太郎くわりんに青き実の生れ
霧雨のけふる盆地に一と世老ふ

島井 節
森井まさる

▼坂口緑志 選

玉虫がとぶ太陽に彩砕け

永井 みよ

土用蛸たちまち聞く味噌の香に

原 禮子

滴れり深山の鼓動絶ゆるなく

米野てるみ

伊賀の城日々仰ぎ住み胡瓜揉む

土井 陽代

味噌仕込む人肌に豆冷ましては

稲森美智子

あかときの一声に過ぐほととぎす

島井 節

降り立てば打水匂ふ駅舎かな

松岡美都子

八咫鳥の絵馬にひびける夏越唄

三山 隆一

▼塩田数柑子 選

点滴の疵痕黒し梅雨の冷え

葛原 恵葩

子等の声戻る校庭燕の子

稲森すま子

薄暑光被爆者名簿風通す

安本 毬花

除菌剤携帯の日日酷暑中

川波 楊花

▼權未知子 選

美しき手話の指先かきつばた

永井 みよ

見に出でて雲の早さや月今宵

馬場 和子

▼西村和子 選

母の日や足踏みミシン機嫌よく

山本カヨ子

一隅を照らす寺領の桜かな

澤井 重正

▼長谷川權 選

明日を待つ蓮の玉蕾鮎遊ぶ

山本カヨ子

夜濯の盥と共に老いにけり

保田ひろ子

角切られ己の威力失せし鹿

澤井 重正

▼星野椿 選

コロナ禍のテイクアウトの夏料理

三浦 直美

山間の村は静かや蓮の花

橋本 良子

幾重にも雲浮き立たせ稲光

東構 東子

汗拭う靴紐緩む熊野道

森川 豊子

万葉の瀬音変らず鮎を釣る

森中 幸枝

雪解けて山廬に土の匂ひかな

福沢 義男

万緑を従へ伊賀の天守閣

田端 昭子

▼正木ゆう子 選

青柿やすでに次郎の形あり

中島 庸子

柗の花の香りと気付くまで

岡田 節

実物といふ赤紙の梅雨湿り

藤田 量子

▼宮坂静生 選

檉の実の跳ねるや子ぶた十二匹

上門 善和

片方のピアスの行方合歡の花

森永 康子

▼宮田正和 選

雲脱ぎてはつ夏の山畳なはる

山下 久美

その扉の遙かな空や蝸牛

小倉 秋子

灯ともさぬ居酒屋「めだか」梅雨寒し

福田 容子

山なみの青より溢れ藤の花

松尾 紀子

伊賀今や梅雨の帳の底ひなる

岡島 千秋

梅雨深しなんじやもんじやといふ真白

岩倉 佳子

雲ごとあぢさゐの毬起こしけり

小川ひとみ

はらからをふと思ふなり豆の花

橋本 秀子

花南天今日銀色に朝の雨

中出 泰衣

▼片山田美子 選

集まりて誰彼無口流燈会

神尾早智子

橋桁に集まる波紋水の春

神尾早智子

【応募数】

一般の部…9,366句

テーマの部…1,832句

児童・生徒の部…23,662句

英語俳句の部…37カ国から1,384句

連句の部…122巻

絵手紙…795枚 ポスター原画…758枚